



since 1926

自分が好き 友だちが好き このまちが好き

横浜市立下野谷小学校

学校だより

1

月号

令和5年1月10日

チームでつなぐ想い

校長 高橋 義成

今年度も皆様のご理解と子どもたちの頑張りによって、運動会を実施することができました。様々な場面でご協力をいただき誠にありがとうございました。また、事後アンケートでは、たくさんの励ましや課題もいただきましたので、これからの活動に活かしてまいります。

今から約98年前にも同じように大学の陸上部として運動会のお手伝いをしていた金栗四三さんという方がおられました。埼玉県の小学校で運営補助をする傍ら、「日本人が世界で勝つためには中長距離走の力を伸ばさなくてはならない。」という思いが沸き起こってこられたそうです。そこで計画されたのが、アメリカ横断大学駅伝でした。議論を重ねる中、日本で行うこととなり、ロッキー山脈に代わる存在として、天下の険である箱根を舞台にした大学駅伝を半年後に実現していきます。壮大な夢を持ちながらも、幾多の困難を乗り越えての開催だったことは容易に想像されます。

箱根駅伝は1987年よりテレビ放送が開始され、瞬く間に日本のお正月の風物詩として定着するまでになりました。その過程において数多くの困難に出会うこととなりました。大雪の中での運営や踏切での足止め、学生の不祥事、インカレとの関わり、予選会の在り方、沿道の観戦にまつわる課題、学連選抜の在り方や低体温症での棄権など課題は限りなく広がっていました。しかし、いかなるときにも「箱根駅伝から世界に通用する選手を育成する。」という目標に常に立ち返り、時代とともに大会を進化させてきたことに対して、心より敬意を抱かずにはられません。来年2024年の第100回大会に向けて、箱根駅伝がどうあるべきかとの協議がかなり進められてきています。来年の予選会では全国の大学から参加することが可能になったことはご存知の方も多いかもかもしれません。

箱根駅伝の優勝トロフィーは、を箱根町の金指勝悦さんが寄木細工で26年前から制作を続けていました。金指さんとは個人的につながりがあり、お人柄に触れることもありました。ある時、小田原アリーナで剣道の大会があり、その時の優勝記念の盾を作成いただけないか相談した際は「箱根や寄木がお役に立てるなら」と快くお返事をいただいたことを覚えています。その金指さんが令和4年の夏にご逝去されました。トロフィーは約半分まで制作されていたそうです。3人のお弟子さんが残りの土台部分を制作し、「チーム金指」で立派に完成させたため、金指さんの想いも伝統もつながりました。

本校の眼科校医である岡野 仁先生が県の教育委員会より表彰されました。長年にわたる学校保健活動のご功績を讃えた表彰です。先生には様々なご相談や、急なけがなどによる診療対応などでご支援いただいております。いつもありがとうございます。そして、おめでとうございます。